

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800078		
法人名	医療法人社団 駿甲会		
事業所名	医療法人社団 駿甲会 グループホーム実夢静波(2ユニット合同)		
所在地	静岡県牧之原市静波203-1		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2295800078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2295800078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念は目標ではありません。何のためにやるのか？を常に考えパーソンセンタードケアを実施することで、居心地の良い生活が送れるよう支援しています。入居されている方々の笑顔が施設をさらに明るくして下さい。山あり海あり空港あり と好条件に恵まれた立地で地域包括ケアを進めていくためにも地域密着型施設の良いところを発信していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

牧之原市東部、静波海水浴場にほど近い場所に事業所があります。`家にお邪魔してお手伝いさせていただく、姿勢を貫き、その人を中心としたパーソンセンタードケアの展開で開設より5年間感染症が出ていないという功績に結びついています。特別な方策はなく「手洗い、うがいの基本を忠実に実行し、生き活きとした日常生活が免疫力を高めることに繋がった」と管理者は振り返り、県グループホーム協会の発表でも注目を浴びています。近隣からは菜園管理や防災への協力体制を得ており、また看取りでは理解あるかかりつけ医にも恵まれ、地域包括ケアに向け期待が膨らむ事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を全員で共有し実践しています。スタッフルームに掲示、常に意識をし、理念は目標ではなく、目的、として捉えています。	「家にお邪魔してお手伝いさせていただく姿勢を大切にしよう」「何でもないことを問題にはならない。本人が困っていることを支援しよう」開設当初から同じ想いを貫く『静波ブランド』の職員によって居心地良い生活が守られ、理念の定着を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を常に行っています。お祭りには、駐車場を解放し交流を行っています。	散歩先での花・野菜の差入れや、事業所の畑を精魂込めて管理してくれる人もいます。地域のお祭りには椅子を準備してもらえらる間柄となり、高校球児による溝清掃や小学校からアルミ缶収益金の寄付もあり、事業所に関わる人々のあたたかさにも助けられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な開催で民生委員様の参加や、町内会に施設発行のニュースを配布し施設の情報発信しています。地域支援も視野入れ認知症になっても困らない地域作りができるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催です。行政、包括、民生委員様社協に御参加頂き、意見を頂いています。	二つの班に属しているため其々の町内会長、民生委員、班長が揃っています。事業所防災訓練には地域の防災役員が立合い、職員不足の折には協力を惜しまないとの心強い体制があります。民生委員からは独居世帯の報告があり近隣における解決すべき事柄を共有しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な開催で行政、社協等には、毎回御参加頂いています。施設の情報や地域の情報を共有し地域包括ケアが円滑に進められるよう、取り組んでいます。	運営推進会議には毎回駆けつけてくださり、『災害時等における施設利用の協力に関する協定』を結んでいます。わからないことは直ぐに電話で問い合わせ、市のグループホーム連絡会立上げの相談にも丁寧な対応があり、毎月介護相談員も受入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。言葉の拘束も含め、身体拘束は行いません。	外部研修での知識習得を毎月のスタッフ会議で落とし込んでいます。「立っちゃダメ」より「どうしたの」と声をかけることを慣行し、帰宅願望や破壊行動は危険がない限り本人が落ち着くまで見守っています。起こらないようにすることを前提とし、何をきっかけに始まるのかを考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待はあってはならないことと、受け止め、職員全員で取り組んでいます。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用しようとした方がいるため、会議で制度についてのしくみ等を話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居⇒入居前に施設見学と説明を行い契約説明には丁寧に時間をかけ十分理解して頂けるようにしています。 退居⇒御家族が困ることの無い様に適切に対応させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、運営推進会議への御参加で御家族からの意見等を伺いスタッフ会議で話合っています。	地区花火大会の鑑賞や餅つきを家族とともにこなえています。『実夢静波ニュース』で毎月の活動をお知らせし、運営推進会議に家族の出席もあります。「いつでもなんでも言ってください」という気構えで面会時の対話を重視しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議の開催で、色々な意見等を出し合っています。必要に応じて法人への提言を行っています。	「とにかくやってみよう」という管理者の考えから、現場で最も接点の多い職員の提案を広く採用しています。食事、レクリエーション、防災、実夢ニュース、環境美化といった係担当が機能し、業務の割り振りについてもボトムアップが確立されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に法人本部との会議に出席し常に本部との連絡を行い職員が働きやすい職場作りに努めています。処遇改善交付金の交付。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人本部が開催する研修等に参加しています。法人外の研修にも積極的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設間連携や、近隣事業所との連携で情報を共有しています。地域のサービス事業所連絡会に参加しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に個人面談を行い、入居直後にも御本人の意向が聴けるよう努めています。御家族と御本人とは別に面談の機会を設け様子報告や情報の提供をいただき、意向の確認を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今の状況を把握し、その人に合った適切な支援を行っています。御家族の意向も確認し場合によっては色々な制度の利用方等を説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の状況を把握し、その人に合った適切な支援を行っています。御家族の意向も確認し場合によっては色々な制度の利用方法等を説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、される、立場ではなく、入居されている方々と職員が家族のように過ごすよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に御家族との信頼関係を重視し御本人を中心に関わる人で支援していける関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を取り入れ、その人主体で生活が送れるように努めています。馴染みの関係が入居されても継続できるよう支援しています。	契約時には「入居したことを兄弟親戚に知らせ、いつでも会いに来てほしい」と伝えてあります。近隣からの入居も多く、シルバーカーで幼馴染や同級生が面会に訪れています。受診はかかりつけ医を継続しており、医師と会って話せる安心と信頼感は代え難いものがあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居されている方の笑い声が聞こえ、お互いを思いやる気持ちがあり穏やかに楽しく生活が送れるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も困り事等があったら遠慮なく連絡してもらえよう願っています。退居後に近所でお逢いしたり地域の行事でお逢いしたりした時にお話しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で得られた情報を元にその人らしく暮らせるセンター方式を取り入れ支援を行っています。ICFに基づいた考えでできる事の継続支援を行っています。	入居時にセンター方式シート5枚を抜粋し、本人ならびに家族からの聞き取りを合わせ『生活歴聞き取りシート』に集約しています。生活によって変わるコトは独自のシートを通して“今出来ること”、“やりたいけれどできていないこと”を明確に掴んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前ケアマネの情報等を元に御家族からの情報収集、センター方式には御家族にも記入していただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや心身の状況などアセスメントを行い日々の支援(支援経過・受診記録・排泄記録等)からひとりひとりの現状の把握に努め情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成には御本人はもちろん、御家族の意向を伺い担当者と計画作成者とケアマネが作成します。定期的に評価を行い常に御本人の今の状況に目を向け職員全員でケアプランの情報共有しています。	雑型となるアセスメントシートは担当が記載し、計画作成が入居前情報シートとセンター方式シートから凝縮して作成しています。ケアプランチェックシートには健康面やADL、排泄、入浴の項目ごとに本人、家族の意向と捉える課題を抽出してプランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン作成には御本人はもちろん、御家族の意向を伺い担当者と計画作成者とケアマネが作成します。定期的に評価を行い常に御本人の今の状況に目を向け職員全員でケアプランの情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしく居心地の良い生活が送れるよう支援しています。個々の状況に合わせてフレックを取り入れています。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんの訪問や地域のお祭り等の行事に積極的に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診はもちろん、かかりつけ医への受診も職員が対応しています。法人母体が病院のため常に連携してし適切な医療が行われるよう支援しています。	常の状態を把握している職員が同行するべきとして、従来からのかかりつけ医に受診支援しています。毎週法人施設の看護師が訪問し、異常の早期発見に努め重篤なケースもありません。定期受診の報告はあえてしませんが気になる受診結果は家族に連絡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問で常に健康状態の把握ができ異常の早期発見に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人母体である病院と常に連携しています。協力医療関係とはもちろんですが、近隣の開業医の先生方にも施設の情報を発信し適切な助言指導をいただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化についての説明を行っています。終末期についての意向は伺います。常に御家族との信頼関係のもとに支援しています。	「家族の了解が得られているならば」とかかりつけ医も協力的です。本当にここで良いのか、家族とは何度も話し合いを繰り返し、事業所のできることできないことを説明しています。開設5年を経て3件の看取りがありその経験からも職員は「ここで看取りたい」気持ちが強まっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時オリエンテーションや法人内での研修に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災・地震・津波 に対する避難訓練を実施しています。毎月の消防機器点検は職員が行い、年2回業者の点検を実施して消防署に提出しています。防火管理者3名。アマチュア無線4級保持2名。	夜勤職員で夜間での訓練を行い、大規模災害には避難地へ向かわず事業所で待機するとの申し合わせもできています。「応援が到着しても優先順位がわからない」との意見から、写真入りの個人カードに薬示情報、歩行可否を加えています。	『災害時等における施設利用の協力に関する協定』により、行政や地域と連携した災害対策が進められることを期待いたします。

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束ゼロ宣言はもとより、本人の意向を無視した行動(支援)は禁止です。御本人の意向を確認し尊厳を重視することがパーソンセンタードケアにつながると考えています。	法人マナー研修やグループホーム協会の講習会で認知症ケアにおける接遇を学んでいます。利用者主導に徹し物越し柔らかな『静波ブランド』は“その人らしく、その人を中心にした、パーソンセンタードケアの浸透が覗えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で御本人のやりたい事できる事の把握に努め、楽しく過ごせるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設名の由来でもあります。実夢(三無)が んばらない・がまんしない・無理しない を実践できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院などには、決められた日に行くのではなく御本人の希望に合わせ職員が対応しています。行事には普段より念入りに整えるなど御本人も張り切っている姿が見られています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の話題は豊富で外食に出掛けています。できる方には食事の準備・配膳・片づけをお手伝いいただいています。介護職員の他に調理専門職員2名も補充し内1名は介護食士3級の研修中です。	昼は調理専門職員が、朝晩は職員が手造りしています。「おいしそう、食べてみたい」という関心が持続できる食事にしたという使命感から調理師免許、介護食士3級を取得し、見た目、飲みやすさへのきめ細かい手筈で残食もありません。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状況に合わせ、量や形態を工夫して対応しています。また摂取量の把握で体重管理にも気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。協力歯科医院の受診へも職員が対応しています。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄記録を行い排泄パターンの把握に努め病気の早期発見やオムツ⇒布パンツへの移行ができるよう支援しています。	できるだけ布パンツで過ごせるよう日中の声かけを頻繁にしてトイレに誘っています。夜間ゆっくり眠ってもらうため冬季はオムツの人もいます。排泄の声かけは他の人にわからないようにおこない、職員同士があからさまに聞き合うことがないようにチェック表で確かめています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとりひとりの排泄記録を行い、排便パターンの把握に努めています。排便に関するの申し送りを行い職員が情報を共有しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時は決めていません。御本人の意向に沿って対応しています。皮膚疾患のある方等ひとりひとりに合わせた対応をしています。	曜日や時間を決めず、入浴表をもとに間が空かないように「お風呂どうですか」と誘い、本人が気分良く入れる時に実施しています。湯に浸かり一対一でゆっくり話せるくつろぎの時間にもなっています。リフト浴もありますが入浴補助用品や介助技術で個浴対応できています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は決めていません。ひとりひとりのペースやその時の体調等によって支援しています。日中の活動を高め安眠できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂くお薬の説明書を添付し内服薬や外用薬の管理をしています。変更や追加には申し送りノートを活用して情報を共有しています。かかりつけ薬局と常に情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用して その人小主体で生活ができ居心地の良い生活が送れるよう努めています。御家族にセンター方式の趣旨を御理解いただき、記入に協力していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	山あり海あり空港ありと立地条件に恵まれているので、外出レクが盛んです。天気の良い時や気候が良い時期はお散歩が頻回で日に2回出ることもあります。	週3回食材の購入にも出かけています。特別なことではなく生活の延長線上のものとして捉え、桜やチューリップが見頃となれば花見に、夏の風物詩の花火大会、農協祭のチラシが入った日には誘い合い、折々の行事や本人の希望に応じて寒い時でも温かくして外出しています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物には職員と出掛け、自分のお財布から支払うという日常の当たり前の生活を送っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望された時は対応しています。毎年年賀状を送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が安心して穏やかに過ごせるためには、後本人の意向だけでなく環境も重要です。居心地が良く過ごせるよう努めています。季節の花を置くなど、行事には飾りつけで季節感を出すなども工夫しています。	菜園には白菜や大根といった冬野菜が青々と稔っています。食事時間はテレビを消して音楽を流し、日当たりの良い場所にソファを設置しました。生活空間であることから居間の装飾を控えています。クリスマスやお正月の飾りつけは心躍るものとして取入れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御本人の状況に合わせて、席を替えたりフロアを変えたりと居心地良く過ごせるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は御本人が過ごす大切なスペースです。御家族の協力も得ながら居心地の良い居室で過ごせるよう努めています。好みの物や馴染みのある物などを御持参していただいています。	備付けベッドとクローゼットスペースが充分にあるため大きな持ち込みはありませんが、ベッドサイドにハンガーで衣類を掛けたり、布団の中にまとめられた荷物、几帳面にたたんだペーパーの数々に、こだわりの習慣や暮らしが守られていることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりやすいよう適切な位置に表示しています。整理整頓を心掛け安全に配慮しています。皆さんの笑顔でフロアが一段と明るくなっています。		